

長岡京芸術劇場 国民文化祭記念コンサート

"La Traviata"

G. Verdi

椿姫

G. ヴェルディ :

～演奏会形式ハイライト～
原語上演 / 日本語字幕付



北野加織
(ソプラノ)



竹田昌弘
(テノール)



大谷圭介
(バリトン)



山本貴嗣
(指揮)

P. I. チャイコフスキー : 幻想序曲「ロミオとジュリエット」
G. ヴェルディ : 歌劇「運命の力」序曲

演奏 : 国文祭京都・記念オーケストラ

2018年12月9日(日) 13:30 開場 14:00 開演
京都府長岡京記念文化会館

料金 : 1000円 (全席自由) 未就学児童のご入場はご遠慮下さい。

お問い合わせ : 長岡京芸術劇場実行委員会事務局
(京都府長岡京記念文化会館内) <http://www.nagaokakyo-hall.jp>

TEL: 075-955-5711

チケット取扱 : 京都府長岡京記念文化会館

[山口たぼこ店] 921-2500
[恵文社バンビオ店] 952-3421
[イズミヤ長岡店] 953-5801

[ラブリー円明寺] 955-2641
[トレンジコンビショップ] 957-0252
[文京堂書店] 953-0225



[オペラ「椿姫」の魅力をつっぷり味わえる演奏会形式ハイライト]

イタリアオペラの巨匠ジュゼッペ・ヴェルディ不朽の名作「椿姫」の原題は「道を踏み外した女」を意味する”La Traviata”。ヴェネチア フェニーチェ劇場での初演は1853年で、その魅力は現代においても色褪せず、現在世界中で最も愛されているオペラと言えるでしょう。「乾杯の歌」を始め、ここに盛り込まれた歌の一つ一つが演奏会用楽曲としても名高いものばかりで、まさに名曲の宝庫と言えます。物語は、残された命が短い娼婦ヴィオレッタと、パーティで彼女に出会い恋仲となるアルフレード、娘の結婚の為にアルフレードを故郷に連れ帰ろうとする父ジョルジョ・ジェルモンの3人を軸に繰り広げられます。ヴィオレッタの死に至る悲劇の中であって、三人三様の人間関係が、歌の中で愛や優しさや生きる喜びを表現し、聴き手を独特の幸福感に導くあたりは、まさにヴェルディのみがなせる妙技でしょう。

今回は、このオペラのストーリーを追いながら、魅力的な楽曲を選定し、約60分の演奏会形式（セットを使わない舞台上でオーケストラと歌手が演奏）で上演（原語上演・日本語字幕付）。ヴィオレッタ役（ソプラノ）に北野加織、アルフレード役（テノール）に竹田昌弘、ジョルジョ・ジェルモン役（バリトン）に大谷圭介の各氏を迎え、演奏会の後半のプログラムとしてお届けします。

数年前に合唱を通じて出会った大谷氏と指揮の山本氏による共同企画で、国民文化祭記念コンサートとしても初めての試みとなります。「かちこ暮らしっく」の街＝長岡京で、日曜の午後、イタリアオペラの魅力をつっぷり味わってください。

[ソリスト・指揮者プロフィール]

北野加織 Kaori Kitano (ソプラノ)

奈良県立高円高等学校音楽科、大阪芸術大学卒業。第30回摂津音楽祭 関西・大阪21世紀協会賞、聴衆審査賞受賞。第21回KOBÉ国際音楽コンクール奨励賞受賞。ザルツブルク・モーツァルトウム夏期国際音楽アカデミー、草津夏期国際音楽アカデミーのマスタークラスを修了し、選抜によりコンサートに出演。オペラでは『魔笛』パミーナ、『ドン・カルロ』テバルド、『椿姫』ヴィオレッタ、『ランメルモールのルチア』ルチアを演じ、『交声曲 海道東征』、『交響曲 第九番』ではソプラノソリストを務める。関西二期会準会員。

竹田昌弘 Masahiro Takeda (テノール)

京都大学大学院修了。「魔笛」タミーノ役でデビュー、その後「蝶々夫人」ピンカートン役、「カルメン」ドン・ホセ役、「椿姫」アルフレード役等に出演。また日生劇場にて東京シティフィル創立30周年記念公演でワーグナー「パルジファル」のタイトルロールを好演、関西フィル定期演奏会では「ジークフリート」タイトルロール等に出演しその模様はNHK-FMにて放送された。また「第九」や「メサイア」、モーツァルトやヴェルディの「レクイエム」のソリストとしても定評がある。第34回日伊声楽コンクール入賞、第23回京都芸術祭音楽部門京都市府知事賞受賞。関西二期会会員

大谷圭介 Keisuke Otani (バリトン)

京都教育大学教育学部数学科卒業。京都市立芸術大学大学院修了及び博士（後期）課程修了。なにわ芸術祭新人賞、高槻音楽コンクール第1位、飯塚音楽コンクール入選他。

オペラでは『フィガロの結婚』伯爵でデビュー。近年では『セヴィリアの理髪師』『ラ・ボエーム』『椿姫』『ドン・カルロ』『アンドレア・シェニエ』『ジャンニ・スキッキ』『ファウスト』『イリス』他多数主演。輝かしい歌声と端正な演唱で観客を魅了している。

関西二期会会員。MBS『一万人の第九』、京都市少年合唱団、大阪フィルハーモニー合唱団、KEIBUN 第九合唱団各指導者。

山本貴嗣 Takashi Yamamoto (指揮)

大阪大学人間科学部卒。けいはんなフィルハーモニー管弦楽団 音楽監督を経て、長岡京市民管弦楽団 アドヴァイザリー・コンダクター。レパートリーは幅広く、近年ではベートーヴェン、シューベルト、ショスタコーヴィチ、ブゾーニ、マーラー、ブルックナー、ヒンデミットの各交響曲、ベートーヴェン ピアノ協奏曲第4番 (Pf. 沼光絵理佳氏)、京都フィロムジカ管弦楽団 (客演) でシベリウス ヴァイオリン協奏曲 (初稿版) の関西初演 (Vn. 馬淵清香氏)、洛星交響楽団楽友会演奏会でラヴェル ピアノ協奏曲 (Pf. 大井浩明氏)、バレエでは「淡路島舞台芸術祭」でチャイコフスキー「白鳥の湖」、兵庫県芸文センターでプロコフィエフ「ロミオとジュリエット」の各公演を指揮。17年、伊丹&台北LC「日台親善音楽交流会」で客演指揮をつとめた。

国民文化祭・記念オーケストラ

2011年に京都府において国民文化祭が開催され、ここ長岡京市では「オーケストラの祭典」が行われた。森悠子先生に音楽監督をお願いし、長岡京市民管弦楽団と京都シンフォニカが中心となり、全国のアマチュアオーケストラからも参加者を募って、合同オーケストラを編成し、大成功を収めることができた。これを記念して、引き続き、長岡京市を中心とする京都府南部の芸術文化の向上に寄与することを目的に、継続的に国民文化祭記念コンサートを開催することとなり、このため、長岡京市民管弦楽団と国民文化祭参加メンバーを中心として、毎年、特別編成のオーケストラを組織している。

